

フラッシュ

JA青森



ブドウ 防除対策徹底 (5/23)

青森市農林水産部あおりり産品支援課は、2023年度第1回青森市ぶどう栽培技術講習会を青森市高田地区で開き、生産者や市職員など約30人が参加した。

防除暦に基づいた防除作業を行うことが美味しいブドウを实らせるなどの職員の説明に、生産者はしっかりと耳を傾け、今後の作業を確認した。

JAつがるにしきた



バケツの中に小さな田んぼ
小学生がお米作りに挑戦 (5/10)
JAつがるにしきたは、深浦町立深浦小学校の5年生13人にバケツ稲の指導を行った。児童や先生、町役場、JA職員合わせて22人が参加した。
米作りを手軽に体験できる「バケツ稲」の栽培は、同小学校で毎年行っており、稲の成長を体験し、「食と農」を学んでいる。

JAごしよつがる



摘果要点を学ぶ つる割れ対策も (5/19)

JAごしよつがるは、五所川原市の園地2カ所でリンゴの現地講習会を開いた。参加した生産者らは、今後の摘果作業のポイントを重点に、これからの栽培管理、病虫害防除の要点について学んだ。

長橋地区の園地での講習会には生産者20人が参加し、西北地域県民局の担当者が摘果時の留意点などを説明した。

JAつがる弘前



新たな仲間づくりに向け

「生きがい農業講座」開始 (5/15)

JAつがる弘前は、定年後に農業を始めたい人らを対象に「生きがい農業講座」として、ピーマンを定植する実演講習を藤崎町の園地で開いた。

同講座は、座学による学習やほ場に出向いての実践、施設の選果場見学など1年間で合計5回ほどの学習を行う。

オペレーターの健康と安全を守り田植えを (5/17~23)

JA相馬村ライスロマンクラブは、8年連続特A米認定を受けた『青天の霹靂』の田植えを行った。今年は降雨や熱中症への対策として、田植え機6台のうち4台に屋根をつけた。

同クラブの花田勇人組合長は「オペレーターの健康と安全を守りたい。今後も労働環境や作業安全を改良していきたい」と話した。

JA相馬村



JA津軽みらい



スマート農業実用化に向けた栽培試験（5/12）

平川市水稲直播栽培研究会は、平川市で農業用ドローンによる水稲直播栽培の試験を実施し、同研究会の会員や生産者、JA津軽みらい職員ら約30人が出席した。

取扱メーカーの社員がドローンを操縦し、打ち込み式条播播種を水田約40%、散播式播種を水田約30%に播種し、播種後はドローンで除草剤を散布した。

JAゆうき青森



甘くておいしい！

野辺地葉つきこかぶ出荷開始（5/7）

野辺地町の特産品である「葉つきこかぶ」の出荷が始まった。野辺地葉つきこかぶの生産者数は38人で、全体で3410トンの出荷量。10月中旬まで県内や関東方面の各市場に出荷する。

今年の葉つきこかぶは、雪解けが早く播種時期が早まったことと適度な降雨と気温により生育が順調に推移したことから、昨年より5日早い出荷となった。

JA十和田おいらせ



ダイコン首都圏へ出発

シーズン10億4000万円越え目指す（5/23）

JA十和田おいらせは、おいらせ町のももいし野菜センターでダイコンの首都圏初出荷式を開いた。

ダイコン1000箱（1箱10*）を積んだトラックがJA全農青果センター(株)東京センターに向けて出発した。JAでは、高品質と安定出荷に努め、管内全体のシーズン取扱高10億4000万円超えを目指す。

JAおいらせ



青年部が児童の米作りサポート（5/26）
三沢市立おおそら小学校の4～6年生48人は、三沢市の農事組合法人フラップあぐり北三沢のほ場で田植えを行った。
JAおいらせ青年部三沢地区の部員9人が参加し、苗を植える目印のロープを張ったり、児童へ苗を手渡しして体験学習をサポートした。

令和4年度 JA八戸共済推進総合目標達成報告会
令和5年度 JA八戸共済推進総合目標必達決起集会



JA八戸

共済推進総合目標必達に向け決起集会（5/12）

JA八戸は、八戸市で共済推進総合目標決起集会を行い、ライフアドバイザー、スマイルサポーターを中心とした役職員82人が参加した。

令和4年度は全員「One Team」で取り組んだ結果、推進総合実績1080万票、達成率102.8%となり、令和5年度も「One Team」で早期達成」を掲げ、推進総合目標950万票達成に向け役職員一同結束した。

石塚選子さんを会長に選任／青森県農協生活指導員連絡協議会通常総会

青森県農協生活指導員連絡協議会は5月18日、県農協会館で通常総会を開き、県内JAの生活指導員ら18人が出席した。

総会では、2023年度の事業計画や予算などの全5議案を承認。組合員や地域住民とのつながりを大切にし、地域の社会貢献に繋げ、またJA・会員同志の横の連携・ネットワークづくりに取り組むこととした。

また、役員改選では、会長に石塚選子さん（JAゆうき青森）、副会長に白川彩恵さん（JAつがるにしきた）を新たに選任した。



▲挨拶をする新役員

日本農業新聞通信員会議・研修会

JA青森中央会は5月25日、県農協会館で日本農業新聞通信員会議・研修会を開き、県内JA・連合会通信員など約20人が参加した。

会議では、2022年度日本農業新聞青森県優績JA・通信員表彰、2023年度通信員に対し委嘱状を交付した。また23年度紙面改善のポイント、東北版の編集方針や青森県版の掲載内容等について説明した。

会議後は、日本農業新聞東北支所の前田大介次長を講師に、実演を交えながら記事の書き方や写真の撮り方を学んだ。

なお表彰者は以下のとおり。

◇優績JA表彰

- ▽最優秀賞＝JA青森
- ▽優秀賞＝JA十和田おいらせ
- ▽優良賞＝JAゆうき青森

◇優績通信員表彰

- ▽最優秀賞（最多送稿本数賞）＝長内亨公（JA青森）
- ▽優秀賞（優秀記事賞）＝三浦朱里（JAつがるにしきた）
- ▽優秀賞（優秀写真賞）＝谷坂咲子（JA十和田おいらせ）
- ▽優良賞＝江刺家結伊（JAゆうき青森）、新谷幸子（JAごしょつがる）、田村香穂（JA八戸）、箱田竜亮（JA津軽みらい）、常田帆夏（JA十和田おいらせ）、松野春香（JAつがる弘前）、種市はるか（JAおいらせ）

▽特別賞（記事段数賞）（写真段数賞）＝谷坂咲子（JA十和田おいらせ）



▲表彰状を受け取る参加者

行事（6/10～7/10）

6月

- 13日 営農指導員資格認証に係る指定研修会<施肥>（県農協会館）
- 13日 令和5年度農政セミナー、第1回営農部課長会議（アートホテル青森）
- 16日 県JA女性協夏期研修会（県農協会館）
- 19～20日 監督者研修会1（県農協会館）
- 20～21日 経営管理支援実践研修会（県農協会館）
- 20日 JA経営基盤強化研修会（WEB）（県農協会館）
- 23日 経済事業内部統制基礎研修会（県農協会館）
- 26日 通常総会（県農協会館）
- 26日 県農協農政対策本部委員会（県農協会館）
- 29日 JA広報担当部課長および担当者会議（県農協会館）
- 29日 第1回きらきらサークル研修会（県農協会館）
- 29日 営農指導員資格認証に係る指定研修会<防除>（県農協会館）
- 30日 第2回きらきらサークル研修会（県農協会館）

7月

- 3～6日 次世代リーダー育成研修会ユニット1（宮城県名取市「JA学園宮城」）
- 4～5日 総務・管理担当部課長会議（県農協会館）
- 10日 JA総務管理担当常勤理事会議（アップルパレス青森）

税金のお支払いは簡単・便利なJAバンクアプリがおすすめ!

JAバンクでは、2023年4月17日(月)より、JAバンクアプリの機能を拡充し、Pay B(※)機能で地方税統一QRコード(eL-QR(エルキューアール))を活用した地方税納付への対応を開始した。

地方税統一QRコードは、総務省が納税者の利便性向上と関係機関の事務負担軽減を目的に導入し、2023年4月1日から利用が開始されたもので、地方公共団体から送付される地方税の納付書に印字されたeL-QRを活用することで、さまざまな納税方法が選べるようになり、スマートフォン決済アプリでのキャッシュレス納付も可能になった。

対象となる税目は、自動車税、軽自動車税、固定資産税、都市計画税で、JAバンクアプリのPay B機能を使えば、地方公共団体や金融機関の窓口に向くことなく、自宅やオフィスからいつでも簡単に納付することができる。

なお、Pay Bを運営するビリングシステム株式会社では、すべてのPay B利用者を対象に最大50,000円が当たるキャッシュバックキャンペーンを実施している。

キャンペーン期間は2023年6月30日(金)までで、期間中のPay B利用などが条件。

詳しくはビリングシステム株式会社のホームページ(<https://payb.jp/>)でご確認願いたい。

今年の自動車税・軽自動車税を納付する際は、是非JAバンクアプリのPay B機能のご利用を。



【操作に関するお問い合わせはヘルプデスクまで】

0120-058-098

平日9:00~21:00 土日祝9:00~17:00

JAバンクアプリ bankap-ja-helpdesk@dream.com

※ Pay Bは、ビリングシステム株式会社が開発・運営するサービスで、Pay B加盟店が発行するコンビニ払込票のバーコードやeL-QRをスマホのカメラで読み込んで、事前に登録した金融機関口座から「いつでも」「どこでも」即時にお支払いできる決済アプリです。

行事(6/10~7/10)

農林中央金庫

6月

- 12~13日 信用事業新任管理者研修(※)
- 14日 住宅ローン提案型営業研修(県農協会館)
- 15日 JA信用事業における反社会的勢力対応研修(※)
- 15日 JAバンク青森運営協議会専門委員会(県農協会館)
- 20~21日 ライフイベントセールスリーダー養成講座(第1回)(県農協会館)
- 22~23日 農業融資研修(融資・審査編)(※)
- 27日 不正不祥事未然防止対策研修(※)
- 28~29日 相続実務研修(※)

7月

- 4~5日 資産形成・運用提案研修(知識編)(※)
 - 6日 窓口年金推進研修(県農協会館)
 - 6日 2023年度第1回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験(県農協会館)
- (※)はウェブ会議

農協電算センター

6月

- 13日 窓口端末機操作研修(貸出金)・1回開催(県農協会館)
- 16~29日 窓口端末機操作研修(情報系)・5回開催(県農協会館)
- 26日 定時株主総会(県農協会館)

弘前大学への研究支援

JA全農あおもりは、りんご生産者の営農継続を健康面からサポートするため、国立大学法人弘前大学が行う「肩腱板損傷(かたけんばんそんしょう)」の研究を支援する。

この病気は、腕を継続的に上げた状態で作業をするりんご生産者に発症することが多いとされており、早期発見・早期治療で治癒率が高まることが期待される。

そのため同大学は、毎年6月に実施している「岩木健康増進プロジェクト(弘前市、青森県総合検診センターと合同で実施)」において、りんご生産者など400名を対象にMRI診断を実施し、データ収集・解析・研究を進める。

全農あおもりの桑田徳文県本部長は4月27日、同大学を訪問し、「肩腱板損傷の症状を、りんごを初め農業に携わる生産者に広く認知してもらい早期受診に繋がることを期待している。長く営農に携わっていただけるよう生産者を健康面からサポートしたい」と話した。

同大学は、来年3月頃までに研究結果を出す予定としている。全農あおもりでは結果を踏まえ、JA広報誌等による情報発信により症状の認知と早期受診の啓発を図ることとしている。



▲研究に向けて意気込む関係者ら(左から、弘前大学医学研究科石橋恭之教授、同中路重之特任教授、全農あおもり桑田県本部長、同笹森俊充副本部長)

JA米穀担当部課長および担当者合同会議

JA全農あおもりは、4月27日、青森市の県農協会館で「JA米穀担当部課長および担当者合同

会議」を開き、約60人が出席。令和5年産米の出荷契約手続きについて説明した。

米穀情勢では、主食用米の作付転換について、本県をはじめ全国で取り組んだ結果、需給改善がすすみ米価は回復傾向にあるが、それを上回る生産コストの上昇により米の生産現場は厳しい環境に置かれている。

今後、生産者の手取り確保に向けて、JA・全農はグループ体となって連携し、米の需給安定と適正な価格形成を訴求していく。

また、県産米の定着化・消費拡大を図るため、全国統一キャンペーンやJA・生産者の参加による販売活動の強化、実需者とタイアップした業務用需要の拡大および定着化等に取り組む。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は「新型コロナウイルスの5類引き下げ方針によって既にインバウンドの動きが活発化するなど更なる需給改善が予想される。契約栽培や複数年価格固定契約等に取組み、生産者の手取り安定化を進めたい」と述べた。



▲本年産米の出荷契約について話す長内部長

アグリショップ青森店で花の苗プレゼント

JA全農あおもりは4月29日からの連休中、青森市の県観光物産館アスパム内「アグリショップ青森店」で、リンゴやジュース、ニンニクなどを買い求める客らに、花の苗をプレゼントした。

種類は旬の県産花き「マーガレット」「ネモフィラ」「ナスタチウム」の3つ。税込み500円以上購入した利用客に期間限定で配布した。

同店の高橋次郎所長は「昨年比で利用客が増えている。自宅で花を楽しむ人が増えたら嬉しい」と話した。



▲花の苗を配布する販売スタッフ

「第54回 J A - S S 運営協議会総会」 「J A - S S 所長・スタッフ講習会」お よび「第1回役員会」

青森県 J A - S S 運営協議会は5月8日、青森市のホテル青森で「第54回通常総会」「J A - S S 所長・スタッフ講習会」「第1回役員会」を開いた。

通常総会では令和4年度の活動報告をするとともに、5年度の活動計画について報告した。5年度は、S S スタッフの資質向上やキャンペーン実施による集客力の向上などを重点実施事項に掲げ、取り組むことで決定した。

講習会には県内 J A より S S 担当者ら50名が参加。J A 全農東北エネルギー事業所の山田知巳所長が「全農の中期計画と2030年のめざす姿に向けた取組状況」と題した基調報告をしたほか、(株)セミナー東北の吉田登氏が「上手な育て方・今の時代にあった叱り方・ほめ方」と題した基調講演を行った。

役員会では5年度の活動計画や、6月から展開する「J A - S S の日キャンペーン」などの内容を共有した。



▲あいさつをする太田会長

同協議会の太田満会長は「お客様へ満足するサービスを提供できるようにスタッフ育成に力を入れるとともに、油外商品の取扱拡大により『競争力のある S S』づくりを確立することが大事」と話した。

青森県 J A 農産物検査協議会

青森県 J A 農産物検査協議会は5月10日、青森市の県農協会館で「令和5年度農産物検査員育成研修」を開講し、県内8 J A から18人が参加した。

関係法令や分析・鑑定方法などの基礎課程を6月末までに13日間学び、各作物の収穫期には現場実習課程を12日間実施する。同研修は来年2月に修了する予定。

同協議会の長内敏也会長（J A 全農あおもり米穀部長）は、

「生産者が作った農産物の品質を適正に格付けすることで、産地の評価・信用に繋がる。農産物検査は産地の顔であることを認識しながら研修に臨んでほしい」と呼び掛けた。

また、来賓あいさつにおいて東北農政局青森県拠点の大石俊明総括農政業務管理官は、「公正かつ誠実な職務遂行できる検査員となることを祈念する」と研修生を激励した。

同日は、関係法令などの講義があった。

全農杯卓球大会青森県予選会

J A 全農が特別協賛する「全農杯2023年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の青森県予選会が5月13日、黒石市のスポカールイン黒石で開かれた。J A 全農あおもりは大会に協賛し、優勝、2位、3位の選手に県産農畜産物を贈呈。優勝者には黒毛和牛サーロインステーキ、2位にパックご飯3銘柄セット（青天の霹靂・つ



▲入賞した選手たち

がるロマン・まっしぐら)、3位には飲むヨーグルトセットを贈呈した。

また参加賞として、出場選手全員の330名に「ニッポンエールグミ(飛馬ふじ・王林)」を配布した。

全国大会は、7月28日から30日に神戸市で行われる。

ペースト2段階施肥技術の導入拡大へ

J A全農あおもりは、田植えと同時にペースト肥料を2段階施肥する技術を本格導入し、農作業の省力化やプラスチックの削減による環境にやさしいコメ作りを目指す。

5月20日、肥料メーカーの片倉コープアグリ(株)、農機メーカーのヤンマーホールディングス(株)と協力し、藤崎町のJ Aつがる弘前管内ほ場で「水稻用ペースト肥料の2段階施肥技術」を用いた田植えを行った。

同技術は、ペースト状の肥料を土壌表面から上段と下段に同時施肥することで追肥が不要となるため、農作業の省力化が期待でき、液状であるため肥料詰まりの心配がなく、天候に左右されずに計画的な田植えが可能となる。また、マイクロプラスチック殻を使わないため、環境に配慮した技術となる。

試験場所は、同J Aの生産者・工藤忠彦氏のほ場。この日は、ヤンマー製の田植機を用いて「まっしぐら」を63㍓に田植えした。

今後、J Aや生産者の協力を得ながら生育状況を調査し、同技術の確立に向けて検討を続ける。

全農あおもりの営農購買部肥料農薬推進課の佐々木浩蔵課長は「この技術は、省力化と環境負荷軽減を同時に実現可能であるため、積極的に推進していきたい」と意気込んだ。



▲水稻用ペースト肥料の2段階技術を用いた田植えを行うメーカー担当者



▲2段階施肥機能を搭載した田植機に水稻用ペースト肥料を入れる関係者ら



行事(6/10~7/10)

6月

- 12日 高圧ガス第二種販売講習会(県農協会館)
- 13日 令和5年度やさい・花き販売懇談会(ホテルアベスト青森)
- 29日 J A肥料農薬新人スキルアップ研修会(県農協会館)

毎月2回放送! 「Fresh Vegetable」

5月5日放送

J A津軽みらい「アスパラ」

放送内容は
こちら



今後の放送スケジュール 夕方6時56分から!

- ・6月16日 J Aおいらせ「だいこん」
- ・7月7日 J Aつがるにしきた「ブロッコリー」

共済事業担当常勤理事会議の開催

JA共済連青森は5月12日に青森市の県農協会館で「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

本会議は令和4年度の普及推進結果を踏まえた課題の共有と、令和5年度のJA普及推進目標達成に向けた取組み内容の協議・共有を行うことを目的として開催した。

開会にあたり、沼田本部長と全共連高橋常務から挨拶があり、全国本部東北・北海道地区担当伊藤部長が普及推進状況等についての情勢報告を行った。

会議では①令和5年度事業計画について②令和4年度普及推進結果について③令和5年度JA別普及推進活動計画について④令和5年度全JA普及推進目標の早期達成に向けた取組みについて⑤令和5年度各種広報活動の取組みについて⑥令和5年度共済事業実施体制整備に向けた取組みについて⑦令和5年度地域・農業活性化の取組みについて⑧令和4年度JA本体代理店・県本部代理店実績について⑨令和5年度共栄火災の取組みについて⑩当面の行事予定について⑪新型コロナウイルス感染症にかかる共済金等の取扱いについての説明および協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

J-SMILE 研修会／「窓口の基本編」の開催

JA共済連青森は5月15日に青森市の県農協会館で「J-SMILE 研修会／窓口の基本編」を開催した。

JAの本・支店（所）の新任スマイルサポーターを対象とし、共済窓口としての接遇マインドおよ

び共済担当者としての推進マインドの醸成を目的としている。

研修ではスマイルサポーターが担っている様々な業務の1日の流れ、どのような対応が期待されているのか、また「丁寧な対応」や「まごころ対応」について講師から説明が行われた。

お客様との距離を縮めるために、お客様とJAをつなぐ要としてスマイルサポーターである自分に何ができるかを考えながら参加者は学習した。

今後スマイルサポーターとして活躍していくために、知識を吸収する意欲的な姿勢が伝わってきた。



▲説明を熱心に聞く参加者

行事（6/10～7/10）

6月

- 13～15日 JA審査員養成研修会／共通コース【1回目】（県農協会館）
- 22日 JA共済健やか隊員育成研修（県農協会館）
- 27日 JA共済コンプライアンス点検研修会（オンライン）

7月

- 1日 アンパンマン交通安全キャラバン／JA八戸（南部町民ホール「楽楽ホール」）
- 2日 アンパンマン交通安全キャラバン／JA十和田おいらせ（JA十和田おいらせ本店）
- 3日 新任L A研修会2（県農協会館）
- 5日 自賠責共済経費にかかるJAデータ報告研修会（県農協会館）

「みどりの食料システム戦略」の取組について紹介します



みどりの食料システム戦略の実現に向けて、それぞれの産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を組み合わせた「グリーンな栽培体系」への転換を推進するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組を支援します。

■グリーンな栽培体系への転換をサポートします

化学農薬・化学肥料の使用量低減、有機農業面積の拡大、農業における温室効果ガスの排出量削減を推進するため、農業者、実需者、農薬・肥料メーカー、ICTベンダー、農機メーカー、農業協同組合、普及組織等の地域の関係者が参画する協議会を組織し、グリーンな栽培体系への転換に向けた取組の検討を支援します。

➤ 詳細はこちら <https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/green/#ankor-yosan>



活用例

「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する技術」の組み合わせ



※簡易土壌診断キットの購入も対象です

※データを活用した病害虫の総合防除に関する情報はこちら →



➤ 「みどりの食料システム戦略」では2050年までにこれらを目指しています



➤ 詳細はこちら <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyoseisaku/midori/index.html>



農業者のみなさまへ

農作業中の熱中症を予防しましょう！

暑さを避け、こまめな休憩と水分補給、単独での作業を避けましょう

経営の窓口

◆令和4年度決算速報からみる県内3月決算JAの状況 ～海外情勢の悪化によるコスト上昇が経済事業に影響～

1. はじめに

2022年は、ウィズコロナの考え方のもとで経済社会活動の正常化が進んでいたが、ロシアによるウクライナ侵攻や海外景気悪化により、食品やエネルギーなどの原材料価格が高騰したことが本県経済にも影響を及ぼした。また、本県農産物は、8月に発生した豪雨災害により米穀・りんご・やさいが多くの被害を受けたことにより厳しい販売が続いており、JA経営への影響や、農家組合員の所得への影響も懸念される。

今回は、令和4年度3月決算JAの決算速報をもとに県内JAの状況を紹介したい。

2. 令和4年度決算速報（3月決算JA）の概要

3月決算JAの状況としては、事業総利益（3月決算JA計）が14,394百万円（前年度14,800百万円）、前年対比△406百万円（97.3%）と減少した。購買事業総利益は、昨年度新会計基準の適用に伴う遡及処理を行ったことにより減少した事業総利益が例年どおりとなったことから、4,114百万円（前年度3,637百万円）、前年対比478百万円（113.1%）となった一方、販売事業総利益は、8月の豪雨災害により多くの作物が減収となったことにより、2,969百万円（前年度3,293百万円）、前年対比△323百万円（90.2%）と減少した。

事業総利益から事業管理費を差引いた事業利益は716百万円（前年度975百万円）、前年対比△259百万円（73.4%）と前年を大きく下回った。なお、詳細は下表のとおり。

令和4年度決算速報（3月決算JA）

（単位：百万円）

	令和4年度	令和3年度	差額	前年対比
事業総利益(A)	14,394	14,800	△ 406	97.3%
うち信用	2,676	2,850	△ 175	93.9%
うち共済	3,189	3,289	△ 100	97.0%
うち購買	4,114	3,637	478	113.1%
うち販売	2,969	3,293	△ 323	90.2%
うちその他	1,729	2,054	△ 325	84.2%
うち指導	△ 284	△ 323	40	87.8%

	令和4年度	令和3年度	差額	前年対比
事業管理費(B)	13,678	13,824	△ 147	98.9%
うち人件費	9,063	9,274	△ 211	97.7%
事業利益(A-B)	716	975	△ 259	73.4%
当期剰余金	538	994	△ 456	54.1%

令和3年度は、米価下落やりんごの生産量減少による販売関連事業総利益の減少に伴い、事業利益、当期剰余金が大きく減少する結果となったが、令和4年度の3月決算JAの速報値をみると、豪雨災害により本県農産物が全体的に減収となった影響が大きく、販売関連事業総利益はさらに減少する結果となった。

3. さいごに

今後も正組合員の減少・高齢化による労働力不足、コスト上昇による収益性低下等の様々な課題により、JAの経営収支は厳しくなることが想定され、将来を見据えた収支シミュレーションを策定のうえ、目標利益確保のための取組みを早期に実施していくことが重要となる。

本会としても、持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向け、不断の自己改革への取組みや、事業・施設の再編、早期警戒制度を踏まえた経営の健全性確保等の取組みを引き続き支援していきたい。

（中央会 経営対策部）

実践 農業者支援

集落営農組織におけるインボイス制度の留意点

令和5年10月1日から消費税インボイス制度（適格請求書等保存方式）が開始する。インボイス制度は、農家組合員はもちろんのこと、構成員の多くが免税事業者（基準期間の課税売上が1,000万円以下の事業者）である集落営農組織の法人経営に影響を及ぼす可能性がある。今回は、集落営農組織におけるインボイス制度の留意点について対応策を踏まえ紹介する。

1. 集落営農組織への影響

(1) 構成員からのインボイス発行

制度開始後、構成員が免税事業者の場合、作業委託料や従事分量配当にかかるインボイスを発行することができない。



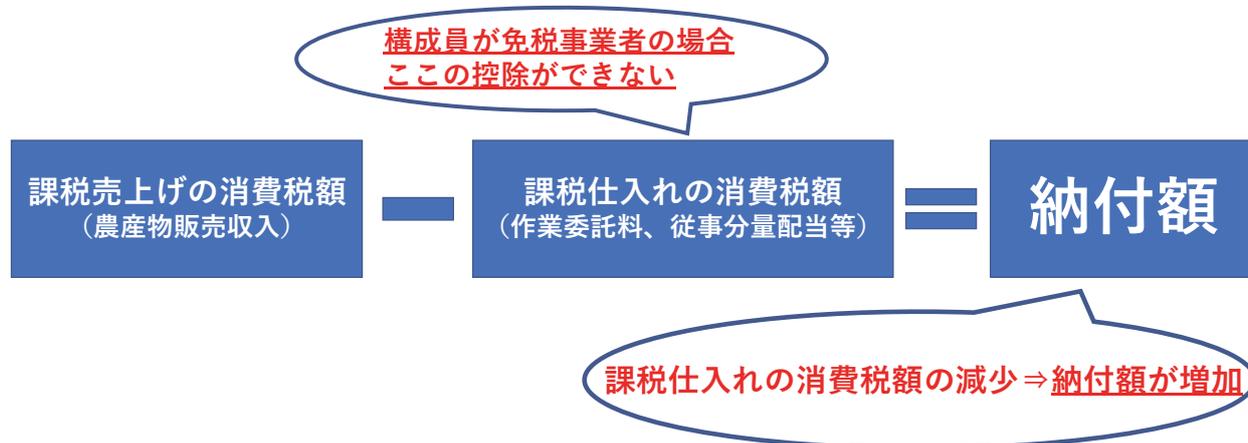
(2) 作業委託料や従事分量配当にかかる消費税の仕入税額控除

インボイスを発行できない免税事業者に支払われる作業委託料や従事分量配当は、消費税の仕入税額控除ができません。そのため、消費税額の仕入税額控除が減少し、納付額が増加（費用負担の増加）する可能性がある。

こうした影響を緩和するため、インボイス制度開始から6年間は、免税事業者からの仕入税額の一定割合を控除できる経過措置が次のとおり設けられている。

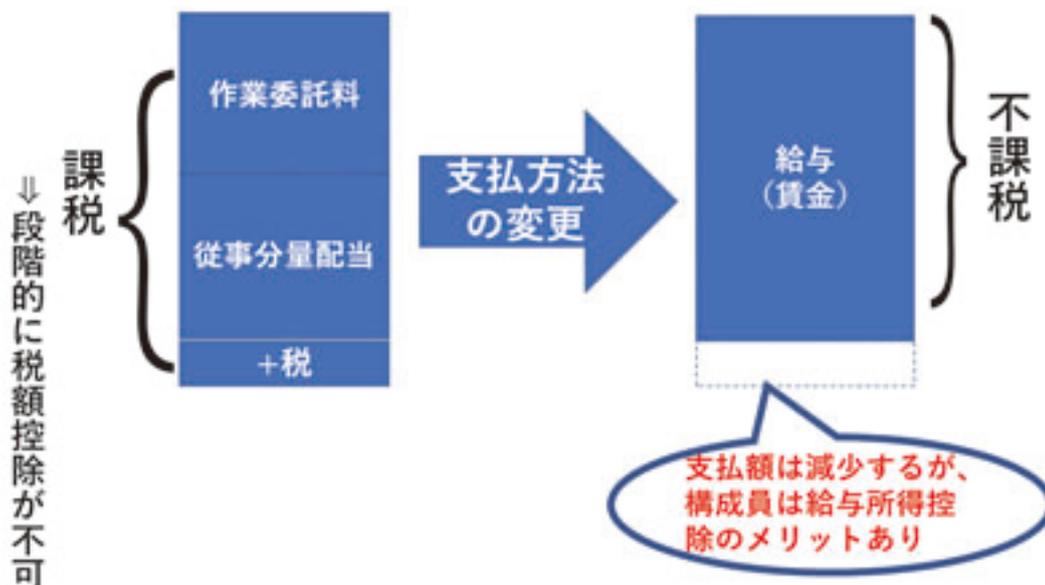
- ①令和5年10月～令和8年9月は免税事業者からの仕入税額相当額の80%
- ②令和8年10月～令和11年9月は免税事業者からの仕入税額相当額の50%

●原則課税制度の仕入税額控除の計算



(3) 構成員を雇用し、消費税が不課税となる給与として支払う

構成員を雇用し作業委託料や従事分量配当の実額を給与（賃金）として支払うことで、経費とすることができる。（構成員は給与所得控除が可能になるが、給与所得金額を検討する必要がある。）



2. インボイス制度への対応

(1) 簡易課税制度の選択

集落営農組織の課税売上額が5,000万円以下の場合、簡易課税制度の選択が可能となる。固定資産の導入計画等、本則課税と比較して消費税納付額の軽減が図られるか検討する。

●簡易課税制度の仕入税額控除の計算



※みなし仕入率…農産物販売収入農産物販売収入（食用）：80%、受託料：60% など事業区分に応じて設定されている。課税売上げに占める農産物販売収入の割合が3/4以上であれば、全てみなし仕入率80%で計算が可能。

(2) 構成員（免税事業者）をインボイス発行事業者へ

免税事業者からインボイス発行事業者になった場合、納税額が3年間、売上税額の2割に軽減できる（2割特例）。構成員がインボイス発行事業者であれば集落営農組織は仕入税額控除が可能になる。

(3) 高収益作物の導入による収益性の向上、隣接法人との連携によるコスト低減等

納付税額の増加を補うため、高収益作物の導入等の新事業の展開、近隣法人との機械や施設の共同利用や資材の共同購入による経営コストの軽減を実施。

以上のように、集落営農組織におけるインボイス制度への対応は様々である。そのため、経過措置に加え、各組織の経営状況や運営方針と照らし合わせた対応策の早期決定が重要となる。

(中央会 農業対策部)

組織農政通信

令和5年度食料・農業・地域政策推進全国大会 および青森県選出国會議員要請

J A全中と全国農政連は5月12日、東京都千代田区のベルサール半蔵門で食料安全保障の強化と適正な価格形成の実現などを旨とし「令和5年度食料・農業・地域政策推進全国大会」を開いた。オンラインを併用し全国から約4,000人が参加し、J Aグループ青森からは雪田徹青森県農協農政対策委員長のほか6名の常任委員が参加した。

主催者を代表してJ A全中の中家徹会長が挨拶し、食料・農業・農村基本法の見直しと食料・農業・地域政策の確立について要請を行った。輸入農畜産物から国産への切り替えとそれらの安定供給に向けた措置、平時を含む食料安全保障の強化などに触れ、食料自給率・自給力の着実な向上に必要な基本政策の確立および農林水産関連予算の確保を訴えた。

要請を受け挨拶した与党政策責任者である自由民主党の江藤拓総合農林政策調査会長や公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長、講演を行った自由民主党の森山裕総合農林政策調査会最高顧問はそろって要請に理解を示した。ほかにも120人を超える与党国會議員が臨席し、司会から一人一人紹介された。

続いて、J A北海道中央会の串田雅樹副会長理事と福岡県農政連の八尋義文委員長がそれぞれ意見表明し、資材・飼料等の高騰で厳しい状況に立たされている農業現場の声を届けた。

その後、J A全国女性協の洞口ひろみ会長の音頭でガンバロー三唱した。

同日、大会を前にJ A青森中央会と青森県農協農政対策委員会は衆参議院会館で本県選出国會議員7人に「食料・農業・農村基本法の見直しおよび令和5年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請」を行った。

要請では主に、①食料安全保障の強化、②再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容を掲げ、不安定な世界情勢や気候変動により我が国の食料安定供給リスクが高まっている今だからこそ、万全な食料・農業・農村政策の確立に向けた食料・農業・農村基本法および関連法案の見直し、施策の拡充が必要であると訴えた。

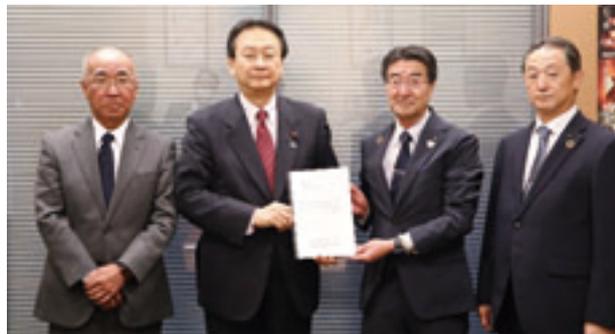
要請に対し、自由民主党の江渡聡徳議員は「目の前の危機を乗り越えることはもちろん、数十年後を見据えた国内の生産基盤強化を実現し、食料の安定供給につなげていく」と力強く述べた。



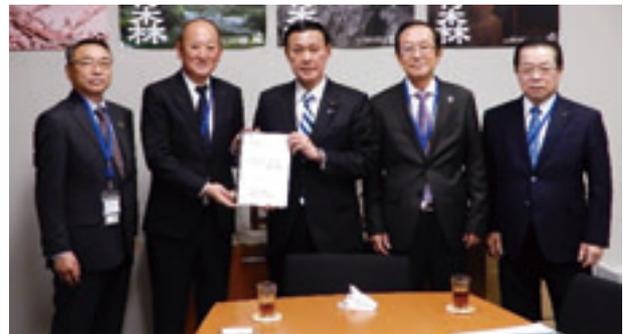
▲食料安全保障の強化を求めた全国大会



▲ガンバロー三唱をする本県参加者



▲江渡聡徳議員（左から2人目）に要請する雪田委員長（右から2人目）ら



▲滝沢求議員（中）に要請する大場副委員長（左から2人目）ら

（中央会 農業対策部）

助成事業で苗木配布

J A 津軽みらいは地域農業生産基盤強化のため、合併2年目の2010年度から農業振興計画を策定し、その計画に関わる助成事業を展開している。22年度は組合員からの意見要望を取り入れながら、管内で生産しているリンゴや野菜の苗、ニンニク種子、ビニールハウスの施設費などに対して助成しており、3000万円を上限として計画した。

22年度のリンゴ苗木助成の申し込みは約500件あり、全助成事業の4分の1を占める。1人につき最大30本で1本あたり500円以内。苗木の配布は各地区で4月中旬から行った。

4月11日には平賀地区で配布を行い、生産者へリンゴや桃の苗木を配布した。生産者は「助成があると苗木を安価で購入できるので、計画的に新規作付けや木の更新などをすることができる。助成は今後も継続してほしい」と話した。



助成事業苗木配布

平賀東支店営業開始

5月22日、新設したJ A 津軽みらい平賀東支店が営業を開始した。同日にはオープニングセレモニーを開きJ A 役員や関係者ら約30人が出席した。



平賀東支店のオープニングセレモニー

同支店は平賀地区の支店再編成により、2022年4月に着工し、今年3月に完成した。これまで平賀地区の新屋支店、竹館支店、葛川支店で行っていた金融共済の業務を継承した。

オープニングセレモニーでは出席者がテープカットで営業開始を祝った。工藤俊博組合長は「経営の健全性確保と基盤強化のため、支店統廃合を計画し取り組んできた。これまで以上に組合員、利用者の皆さまの要望に応え、品質の良いサービスを提供できるよう努めたい」と述べた。



輝き

JA全農あおもり
管理部 広報宣伝総合課
三浦 真由子 さん

●プロフィール
2022年4月から勤務 青森市出身 23歳

働くきっかけは？

大学進学を機に関東圏に移住したことで、青森の農畜産物の魅力に気づけたことがきっかけとなりました。青森県の県産品のPRがしたい！と考えた結果、県産農畜産物を幅広く取り扱う全農を志望し、今に至ります。

業務内容を教えてください。

ECサイトの管理、広報業務やイベント運営などに携わっております。

働いた感想は？

入会前から広報宣伝業務を強く希望していたので、毎日非常にやりがいがあって楽しいです。消費者の方と関わることの多い業務なので、想像以上に県外の方に県産品の評判が高いことを知ることができました。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

そそっかしい性格でミスが多いので、他の人の10倍丁寧にチェックするつもりで作業しています。忙しいときなどはチェックが甘くなり見過ごしてしまうことがあるので、忙しいときこそ一度立ち止まって考えられるよう努めています。

特技・趣味は？

最近は旅行にハマっていて、旅先で綺麗な景色を眺めながら物思いに耽っています。去年までは県内旅行が中心だったので、今年は北海道・関東・関西の3エリアをめくりたいです。

あなたが自慢できることは？

まつ毛（特に下まつげ）がふさふさなこと。マスカラやまつエクにも負けない長さ・密度だと自負しています。

将来の夢は？

将来的に小型犬から大型犬まで沢山の犬に囲まれて暮らしたいです。

液体残さは肥料化へ バイオガス発電



肥料化の実用試験が進む液体残さ

JA十和田おいらせは、野菜出荷調製時に生じる残さをバイオガス発電に活用し、環境負担の少ない農業を推進している。メタン発酵後に発生する液体残さは肥料化し、生産現場に活用できるよう実用化試験も進行中。肥料高騰対策にも期待がかかる。

持続可能な開発目標（SDGs）「7・エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と「12・つくる責任つかう責任」につながる。

JAは管内2カ所の野菜センターからニンジンやナガイモ、ゴボウなど年間約700トンの残さを、発電施設「バイオガスエネルギーとわだ」を運営する県南環境保全センター(株)へ搬入している。発電のためにメタン発酵させて得た、バイオガスを燃焼させ、電力会社に販売している。

年間発電量は、一般家庭の約1100世帯に供給可能な525万kWhになる。

JAでは、メタン発酵させた後の液体残さを肥料化するため、高性能土壌分析装置を活用し、液体残さを散布する前と後の土壌を分析。

液体残さが栽培に必要な成分を補い、肥料コストの低減につながると期待され、早期の実用化に向けて力を入れている。





キュウリを収穫する島山さん

3年前にJA八戸野菜総合部きゅうり専門部長となった島山賢寿さん(40)。キュウリをビニールハウスで20㎡、露地で20㎡、寒締めちぢみホウレンソウ20㎡を栽培している。

以前は勤めながら、家の畑や田んぼの手伝いをしていた。徐々に農業に夢中になり、31歳のときに就農を決意し専業農家になった。

島山さんは「農業のやりがいとは、努力した分、結果に表れる。長い時間をかけ、試行錯誤した末、良いものが穫れたときはうれしい」と話す。子どもを持つ父として、地域の子どもたちに喜んでもらえるような安全・安心なおいしい農産物の生産を目指している。

部会長として島山さんは「情報交換」を大事にしている。自らが市場担当者と価格や他産地の動向などの情報交換を行い、その結果を部会員へ情報提供することで部会員全体の収量増加につなげたいと意気込む。昨年は8月の長雨による病害虫対策のため農薬散布の回数が増えるなど、管理に苦勞した年となったそうだ。

島山さんは「キュウリの値段が上がることで、若手生産者や部会員の生産意欲が高まる。目標である売上高3億円を目指し、部会員同士、情報交換を密に行っていきたい」と目標を語る。

後編 記集

季節も6月に入り、夏も身近に感じるとともに、6月号が発行される頃は、もう梅雨入りしているかと思います。

今回は、幻想的な写真を載せます。撮った日時は平成28年7月の19時過ぎ、千葉幕張の出張から帰る途中で羽田空港から青森空港へ向かっている飛行機から偶然見つけました。

日が暮れかけている雲海から飛び出た雲の形が女性の横顔、もっとロマンチック的に言えば、愛と美の女神アフロディーテが祝福してくれて、旅の安全を祈ってくれてるようにも感じました。

皆さんも飛行機の窓側に乗る機会があれば、ぜ



ひ外の光景をご覧になってみてください、もっと幻想的な光景が見れるかも！

それでは皆様、「SEE YOU ON JULY!!」

(一)

ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。